



## 第4会場●4F 大研修室

■司 会／蓮本 恒知 熊本県教育庁社会教育課 社会教育指導係・社会教育主事  
藤井 伸治 島根県立西部生涯学習推進センター 社会教育主事

### 1 実践的高齢者大学への「調査」・「企画」・「発表」プロセスの展開 10:45～11:10

－趣味・教養講座から地域活動の人材養成講座へ－

中溝 孝博（佐賀県） 佐賀県高齢者大学担当

一般に高齢者大学は「社会還元」ができていないとの批判に応えて、座学での「趣味・教養講座」から、地域で活動する「人材づくりプログラム」に転換を目指した。2年課程の1年目は基礎教養講座を中心とし、2年目に実践のための「ニーズ調査」、「プロジェクトの企画」、「成果の発表」という一連の活動を予定している。4コースあるが、「郷土社会コース」は長崎街道ガイド、吉野ヶ里遺跡ガイド実習等、「文化芸術コース」および「ボランティアコース」では公民館ボランティア活動実習、福祉施設ボランティア実習等を含めている。

### 2 行政と地域の協働による地域が育てる少年活動 11:10～11:35

－「土曜楽校」から「学力アップ講座」まで－

松浦 靖明（鳥取県） 三朝町教育委員会 指導主事

地区公民館を中心とした地域ぐるみの子ども会支援活動が全町の健全育成活動に発展。活動の中心は公民館、PTA、教育支援ボランティアの3者連合体、活動は学校週五日制対応の「土曜楽校」から、スポーツ、野外体験、通学合宿、学力アップ講座など多様である。活動を通して学校と地域の連携、高齢者の指導参加と「役立ち感」の達成、地域の価値の再認識等が進んでいる。

### 3 「熟年式」構想の意味と意義 11:35～12:00

－熟年の「生きる力」と地域活力の創造－

長谷川 進一（山口市阿知須） 熟年式実行委員

「熟年式」は第2の成人式と位置づけている。還暦、定年、老いなどの人生の転機を前に、人々は労働以外の分野でどのような人生設計を組み立て、どのように地域活動に参加して行くのか？第2の成人式は卒業であり同時に入学ではないのか？赤いかみしも姿で整列した熟年の活動支援のあり方を問う。

### 4 総括討論 12:00～12:30